

平成 28 年度
生活介護事業所アンジュ
事業報告

1. 利用者状況（3月末）

○在籍状況 男性 50名 女性 32名 合計 82名

（平均年齢）男性 56.8歳 女性 57.4歳 全体 57.0歳

○年齢別

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
男性	4	1	9	10	18	8	50
女性	0	3	4	9	12	4	32
合計	4	4	13	19	30	12	82

○支援区分別 平均支援区分

	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	8	14	14	9	5	50
女性	9	5	7	6	5	32
合計	17	19	21	15	10	82

○推移状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日	22	23	22	23	19	22	23	21	21	21	20	23	260
男性	52	52	51	52	51	50	49	49	49	49	49	50	603
女性	29	29	29	29	30	30	31	31	32	32	32	32	366
利用者数	81	81	80	81	80	80	80	80	81	81	81	82	968
出席率	82.2	78.0	92.1	82.0	83.4	87.4	81.1	90.2	85.0	78.7	90.3	91.6	84.0

・新規利用者 6名（4月都外施設 1名・7月GH1名・8月GH1名・10月都外施設 1名・12月GH1名・3月GH1名）

・退所者 4名（5月医療機関 1名・7月入所施設 1名・8月健康上理由 1名・9月シャインつむぎ 1名）

○職員体制

・アンジュ

管理者 1名

サービス管理者 2名（1名兼務）

生活支援員 12名（常勤 10名 非・パート 2名）

看護師 1名（兼務）

運転手 1名（パート 1名）

事務員 2名（常勤 1名 パート 1名）

- ・従たる事業所オリーブ
生活支援員 3 名（常勤 1 名 非常勤 2 名）
- ・従たる事業所エコライフプラザ
生活支援員 5 名（常勤 1 名 非・パート 4 名）
- ・従たる事業所原町食堂・キッチン Kiss
生活支援員 1 名（常勤） 調理員 1 名（非常勤）
- ・従たる事業所モモズレシピ
生活支援員 2 名（常勤 1 名 非常勤 1 名）
- ・職員の異動 1 名（7 月） 育休 2 名（常勤）

2. 利用者支援

今年度新たな取り組みとして、理学療法士の導入・余暇支援の充実（休日開所・昼食外出・カラオケ・クッキング）を行った。前年度よりは入院する方は減ったが、高齢化・重度化はより進んでおり、作業量・作業効率ともに下がり、タッセルの活動に参加していた利用者も高齢の為、活動から外れる方も目立ち来年度以降の活動の継続も課題となっている。また、新たに 1 名がアルツハイマー型認知症と診断され、現在の支援の枠組みでの対応の難しさを痛感した。

3. 活動内容

(1) 生産活動

①受注作業

○（株）東栄社

多人数で行う流れ作業を利用者のニーズが多かった個人で完結できる作業に変換するため作業工程を見直し、個人で完結できる作業を増やす事により、多くの利用者の満足度を高めるように支援を行った。さらに、多くの利用者が好むオルゴールの作業を多く受注し、流れ作業を経て協調性を高める事に努めた。

収入 1,441,256 円

○（株）小笠原

今年度は、ボールペンの作業を主に 3 階で行い効率を高めた。ボールペンは、ディズニーのキャラクターが多く工程が難しくない為、利用者の皆さんが楽しく活動に参加していた。ボールペンの組み立て作業は、他の作業と違い自分で完成させた実感と満足感を得られる為、効果的であった。

収入 404,902 円

○（株）いわい

今年度は、受注の要請があったが、内容が利用者の適正に合わず請け負わなかった。

(2) 清掃活動

8 名の利用者が交代でセンタービル内の清掃を行った。清掃場所も利用者も変わって

いない為、手慣れた様子で清掃を行うことができた。慣れたことにより雑になっていた利用者もいたが、その都度声掛けし改善を図った。また、普段通りの清掃場所のみではなく、利用者自ら清掃場所を見つけ、細かい所まで意識しながら清掃を行っていた。

収入 480,000 円

(3) レンタルタオル

平日は9か所に手拭タオル、食器用布巾、台布巾をレンタルした。伝票書き、袋詰め、配達、洗濯の役割をそれぞれ当番制で行った。アイロンの掛け方、畳み方、タオルの枚数数えや伝票への数字の記入、伝票をハサミで切るなど様々なスキルを使い維持することができた。一人ひとりが責任を持ち自分の役割をやり遂げることで自信につながっていた。

収入 361,865 円

(4) 自主生産活動

①しめ飾り

目標の120個に対して119個作成し84個販売出来た。付ける飾りとその工程を各利用者に合った物を提案した事で多くの利用者が作成に参加する事が出来た。またリリアンの花飾りや巻きぐるみのニワトリ等、独自のしめ飾りを作る事が出来た。宣伝と販売に関しては、一般的に売り出される頃と比べると遅くなってしまった。

収入 65,600 円

②リサイクルペーパーポット

活動に参加する利用者が偏らないように配慮したが、活動場所や身体的な障害の影響、他の軽作業との兼ね合いなどから、どうしても偏りがちになってしまった。参加した利用者は、一つの製品を自らの手で完成させることができ満足していた。

生產品はゆず屋で販売したが、商品としての売れ行きは芳しくはなかった。図書館のエコフェアでは無料配布を行い、清掃フェアでは来場者にペーパーポット作りを体験してもらい事業所・利用者と地域を結ぶ接点としての役割を果たすことができた。

現在、毛糸を使用した造花によるフラワーアレンジメントが試作段階である。鉢の部分にリサイクルペーパーポットを利用しており、こうした形で新しい魅力を引き出し、今までの概念に捉われない活動を考えていきたい。

収入 3,170 円

③アクリルたわし

毎週金曜日に活動を行った。利用者は1名だが、本人の特技を活かしたアクリルたわしを作ることができた。販売はゆず屋、タッセルの店頭、区役所販売会で行った。

収入 12,800 円

(5) 創作活動

クラフトバンドとロールピクチャ、編み物を使った作品を製作した。

新しい題材へも挑戦し、キャンバス手芸やリリアン、マフラー作り、巻きぐるみ等毛糸を活用した作品作りを行った。これらは主に秋～冬に製作する事が多かった為、季節

感も取り入れることが出来た。

利用者は体験含め最大 43 名が参加。火曜日と木曜日の各午前 A グループ、午後 B グループと利用者を分け利用者同士の不公平感をなくし、活動を月 1 回とする代わりに 1 回の活動時間を長くし、活動環境の安定に努めた。

職員は 1 グループ 4～6 名の利用者に対し、担当 2 名と他事業所の職員 1 名の協力で行った。参加利用者が増えた為、職員 2 名体制時の補助の割合については課題として残るかたちとなった。

(6) 余暇活動

①レクリエーション

○音楽

4 月～6 月は勤労福祉会館で、7 月からはアンジュ 2 階で利用者 35～37 名で行った。7 月からは月 1 回グループを入れ替えながら行った。

主に童謡・唱歌・演歌・ポップス等利用者になじみ深い歌を歌う、楽器を鳴らす、また、提示したリズムでリズム合奏を行い楽しんだ。選曲は季節を感じられる歌や利用者のよく知る懐メロを入れた。また、ツリーチャイム等普段触れる機会のない楽器を鳴らして貰い、楽しみながら発散できるようにした。11 月からは利用者から次回のリクエスト曲を募り、活動がマンネリ化しないようにした。

日常的に他利用者と関わらない利用者も笑顔で参加できたり、自分の歌いたい曲をリクエストしたりと、普段の活動では見られない様子も見ることができた。

○運動

レクリエーションは普段作業がメインである日中活動の中で、ストレスを発散できる機会、普段あまり関わる事が少ない 2 階の利用者と 3 階の利用者の交流の場となるよう意識をした。提供する運動は車椅子の利用者や足の不自由な利用者を考慮し、座ったまま上半身のみで行えるものを考えた。また、対戦形式にすることでグループの団結力も生まれ、協力し合う事の大切さや楽しさを感じてもらえる事もできた。

普段は表情に変化がない利用者から笑顔が見られたり、声を出しながら盛り上がる様子が見られ、良いリフレッシュの時間となった。

②運動プログラム

食事前の「嚥下体操」、午後の「介護予防体操」はプログラムとして定着した。外での運動はタオル配達を兼ね散歩を行ったが、後半は職員体制が取れず減ってしまった。

また、今年度より月 2 回理学療法士による機能訓練を開始した。訓練が必要な 15 名の訓練内容を作成して貰った。職員も週 3 日訓練を行うが職員体制の都合上、訓練ができない事もあった。今後は、現在の職員体制でも訓練を実施出来るよう工夫する必要があると考えられる。

③行事

○外出

アンケートを実施し、希望する行き先を聞き、参加人数に応じて班を編成した。

また、9月と11月は祝日を開所し外出を行った。特にパン作り体験は好評で楽しむことができた。

グループ外出	千葉市動物公園	4月21日、5月19日
	東京健康ランドまねきの湯	6月13日、6月15日
	カラオケ・シダックス（京成小岩クラブ）	6月14日、6月16日
	加藤ぶどう園	9月1日
	ミタカオルゴール館	11月17日、12月1日
	カップヌードルミュージアム	12月15日
昼食外出	すたみな太郎	8月9日、8月23日
	かっぱ寿司	8月10日
	くら寿司	8月24日
	和食さと	9月15日
休日外出	江戸東京博物館	9月19日、9月22日
	こもれび森のイバライド	11月23日

○忘年会

立石地区センターで12月22日にお楽しみ会として行った。還暦・喜寿のお祝いの他、利用者・職員の余興、カラオケ、ビンゴ等行った。ビンゴがとくに好評で、一人ひとりの好みに合わせた景品に喜びの声が多く聞こえた。

④その他

○新たな取り組みとして、昼食外出、カラオケ、クッキングを行った。特にクッキングでは、普段は触れる事の少ない刃物類も使用し皮むき体験等、楽しんで参加していた。

4. 従たる事業所「オリーブ」

利用者それぞれに合った活動を提供しながら、機能維持の為の運動も行った。体調の変化にも注意し様子を観察、異変があった際には家族や寮職員と連携を取りながら対応した。

(1) 活動内容

①運動

タオル配達、作業部材の運搬、水やり等を通し、外に出て歩く時間を設けた。室内では歩行やバランスボール、理学療法士の指導に基づいた機能訓練等を行い、身体機能の維持を図った。

②軽作業

一部の利用者には軽作業を提供した。作業工程の一部を抜き出して提供したり、職員が補助したりする事で、個々の能力で無理なく生産活動に参加出来るよう工夫した。

③音楽活動

月に2回、音楽が好きな利用者へ向け、専門の講師と音楽に触れる時間を設けた。音楽を聴きながら身体を揺らしたり、楽器を鳴らしたりし楽しんで参加している様子が見られた。

④クッキング

隔月でお菓子作りを行った。工程に参加出来ない利用者も、食事や職員との関わりを楽しんでもらう事が出来た。

⑤外出プログラム

7月－イトーヨーカドー葛西店 昼食外出 10月－葛西臨海公園・水族園
2月－サイゼリア イトーヨーカドー四つ木店 昼食外出

5. 従たる事業所「エコライフプラザ」

(1) 日用不用品コーナー「ゆず屋」

ゆず屋は土日祝日を含め22名の利用者でリサイクル品の販売を行った。ゆず屋では、不用品の店頭回収、仕分け、選別、商品化、値段付け、販売品の整理及び陳列、接客、清掃、宣伝等を行った。利用者が得意とする作業を提供する事でより自信を持ち、満足出来る活動となった。また、店内のレイアウト変更、整理を行い利用者が安全に活動しやすいよう環境整備を行った。

まーちでは17名の利用者が、ゆず屋同様、仕分け、選別、商品化、値段付けを行った。ゆず屋と違い落ち着いた雰囲気で作業しやすい為か参加希望者が多かった。利用者同士が楽しんで作業が出来るように利用者シフトの変更を行う事で、作業とコミュニケーションのバランスの取れた活動となった。

収入 11,073,222円

(2) 喫茶コーナー「タッセル」

利用者8名で活動するが、高齢化に伴い体力面の問題から2名が活動を外れた。

4月からメニューを増やし売り上げアップを目指した。6月からはキッチンkissで調理した弁当をランチタイム限定5食で販売し、売れ行きも良く9月から6食に増やし販売を行った。天候によって売れ残る日もあったが、毎日完売している。メニューを増やしランチ食を始めた事で平日の利用客も増えている。

収入 3,819,550円

6. 従たる事業所「キッチン Kiss・原町食堂」

(1) キッチン Kiss

5月より利用者が1名増え、利用者5名で活動した。

キッチン Kiss では配達先が4件増え配達運転手の負担を軽減する為、近辺の配達は利用者と共に徒歩で行った。

前半は新しく活動に入った利用者の能力に合わせ、絵や写真を用いて活動し易い環境改善に努め、後半は利用者全員が活動に慣れてきたことで、利用者間のコミュニケ

ーションも増え、やり方等について互いに相談し合い、声掛けしながらできていた。

(2) 原町食堂

原町食堂では契約利用者が 11 名増え、席が空くまで待ってもらうなど、出入口まで導線が混み合うこともあったが、時間の調整や裏口も開放して改善を図った。

収入 12,031,675 円

7. 従たる事業所「モモズレシピ」

毎週月曜日と金曜日にシフォンケーキの製造を行った。主にタッセルに参加している利用者に月に数回ずつ活動してもらった。製造したシフォンケーキはタッセルの主力商品となっており、売上のアップに繋がった。また、今年度は販売会を絞り参加した。

区役所販売会 5/30 (月)・12/21 (水)・2/8 (水)

エコフェスタ 6/26 (日)

ゴミ減量清掃フェア 11/6 (日)

収入 999,246 円

8. 健康管理

利用者の健康状態を把握するため、毎月体重測定、血圧測定を行い、その他に年 1 回の定期健康診断を実施した。利用者の高齢化もあって、日常の観察、体重の変化等、グループホーム職員へ助言を行い早期発見、早期治療につながるように、健康に配慮した支援を行った。感染対策ではインフルエンザ感染者は出なかったが、2 月に利用者 1 名が GH でウイルス性胃腸炎を発症し、その後 3 名が胃腸炎と診断を受けた。4 名とも通所している利用者だった為、対策として通所後や休憩後、昼食前に手洗いと手指消毒を行い、帰所後に室内、トイレ等の消毒を 1 ヶ月間行った。4 名以外の利用者が発症することはなかった。

○体重・血圧測定 毎月末

○利用者定期健康診断 10/27

9. 地域交流

○ボランティアセンター、区立中学校からの体験依頼があり受け入れた。

・夏体験ボランティア高校生 1 名 8/2～3

・葛飾区立常盤中学校生徒 2 名 1/23～27

10. 防災

防火対策については、利用者の安全を最優先とし、安全かつ迅速な避難訓練を行った。利用者自身にも火災・地震の災害における防災意識の向上に努めた。

・6 月 3 日避難訓練 (火災想定)

・9 月 9 日避難訓練 (地震想定)

・2月10日避難訓練（火災想定）

11. 福祉車両購入

赤い羽根共同募金から助成を受け車両1台を購入した。

12. 職員研修

(1) 職員研修

支援に必要な知識・技術を習得するために外部研修に参加した。また、内部研修を行い支援スキルの向上に努めた。

①外部研修

- 部会学習会 6/11
- 部会協学習会 7/23
- 部会学習会 9/7
- 部会学習会 9/25
- 部会協学習会 11/21～22
- 部会学習会 3/11
- 福祉施設経営基礎研修 10/24 11/15
- 知的障害者と認知症 11/5
- 関東地区知的障害施設関係職員研究大会 7/14～15
- てんかん基礎講座 8/2～3
- 全国知的障害福祉関係職員研究大会 9/7～9
- 国立のぞみ園福祉セミナー 12/8
- 日中活動支援部 12/5～6
- 創作活動に関する研修セミナー

②内部研修

- リスクマネジメント 6/9
- 介護技術 9/8